

スペイン 暴風雨の被害は柑橘類シーズンを止めない

[FreshFruitPortal](#) 2024年11月8日

柑橘類管理委員会は低気圧がスペインの柑橘類シーズンを止めることはないとしている

スペインのオレンジとマンダリンの輸出の80%を扱う柑橘類管理委員会 (CGC) は、最近の大雨による生産への被害は深刻だが、2つの地区に局地的に限定されており、果実のかなりの部分が回収可能と見込まれると報告している。

同委員会のプレスリリースによると、バレンシア州のすべての倉庫は稼働しており、欧州連合への出荷の継続が保証されている。リリースは「収穫、調製、商業的流通の業務は再開されており、課題はあるものの比較的通常どおりに進んでいる」としている。

DANA (Depresión Aislada en Niveles Altos (上層の孤立低気圧)) として知られる暴風雨は、10月29日にバレンシア州の広い地域を襲い、壊滅的な洪水を引き起こした。大雨はほぼ1週間続き、北は同州のカステリオン県、南はアンダルシア州の柑橘類産地であるセビリア、ウエルバ、カディスの各県などにも広がった。

CGCのインマクラダ・サンフェリウ会長は、「この2週間、農業部門が直面した莫大な損失に加えて、洪水後には収穫作業ができず、園地へのアクセスや果実の輸送が困難になったため、柑橘類の出荷シーズンが遅くなった。スペインの柑橘類輸出の80%、国内市場の60~70%を占めるメンバーと連絡を取ったところ、現在、バレンシア州のすべての梱包施設は完全に稼働しており、ヨーロッパの小売業者へのマンダリンとオレンジの供給を確保している」と説明した。

CGCは、バレンシア州内の主要な農業組織の評価と同じく、主な被害は農業インフラ、農地へのアクセス、及び設備(貯水池、配水管、井戸、壁、フェンス等)に影響を与えていると指摘している。

状況は依然として深刻だが、柑橘類果樹園の最も大きな被害はラリベラアルタ、ラリベラバハの両郡とロスセラノス郡のペドラルバ町に集中している。バレンシア県内のこのほかの主要な産地であるラサフォル、カンブデモルヴェドレ、カンブデトゥリアの各郡及び北オルタ、南オルタ、西オルタの各郡の一部、さらに南のラコステラ郡などでは雨による被害は軽微であった。

バレンシア県の他の地域、カステリオン県とアリカンテ県の大部分(以上バレンシア州)、アンダルシア州及びムルシア州の柑橘類産地では、降雨はむしろ恩恵をもたらしており、多くの種類の柑橘類が育ち、2年間の深刻な干ばつの影響を緩和するのに役立っている。

サンフェリウ氏は、「被害を受けた園地のほとんどはまだ泥に覆われているが、一度アクセスできるようになれば、果実のかなりの部分が青果としての販売や果汁への加工のために収穫される可能性がある。これは最近の記憶の中で最も破壊的な部類の嵐だが、CGCは、この業界がそのような状況を管理する上でかなりの経験を有していることを強調したい。我々の梱包施設は、EU向けの一貫した品質の供給を確保するために必要な技術と専門知識を備えている」と述べた。

輸送の課題

影響を受けていない地域からの集荷は別として、スペインの柑橘類輸出部門の主な障害はバレンシア県内の物流状況である。バレンシア市のバイパス自動車道を含む重要なインフラへの被害は大きく、主要な自動車道の一部は依然として閉鎖されている。昨日、大型車両の規制が一部解除され、バレンシア環状道路では応急修理が進んでおり、交通の流れを助けるための迂回路がまもなく完成する見込みである。

道路渋滞に対応して、CGCは当局に対し、柑橘類など生鮮食品の優先的な通行路を確立するよう求めている。委員会は、「スペインとヨーロッパにおける COVID-19の制限と検疫の経験は、これが実行可能な緊急解決策であることを示している」としている。

(関連記事)スペイン バレンシア州の洪水の農業被害は10億ユーロ超

[FreshFruitPortal](#) 2024年11月8日

バレンシア州農業生産者協会(AVA-ASAJA)の当初の見積もりによると、今世紀最悪の嵐は、バレンシア州の農業部門に10億9千万ユーロ(11億7千万ドル)を超える損失をもたらした。

被害は壊滅的であり、農作物、農場、農業インフラ、機械、車両、牧場、苗畑に影響を与えたとされている。地滑りにより、農場全体が消滅したものもあると同協会は報告している。

同協会は、収穫前の農作物への被害を合計2億7,800万ユーロ(2億9,900万ドル)と推定しており、柑橘類が1億9,200万ユーロ(2億600万ドル)で最も大きな被害を受け、次いでカキ(5,400万ユーロ/5,800万ドル)、野菜(2,480万ユーロ/2,700万ドル)、アボカド(720万ユーロ/770万ドル)となっている。早生品種のマンダリンとカキをはじめとして、これらの作物の多くは収穫の最盛期であった。

さらに深刻なのは、農業インフラの損失で、4億8,600万ユーロ(5億2,300万ドル)と推定される。これには、農道の2億6千万ユーロ(2億8千万ドル)、灌漑インフラ(貯水池、送水本管、井戸等)の1億2千万ユーロ(1億2,900万ドル)、温室の1,500万ユーロ(1,600万ドル)、局地的な灌漑設備のある農地の5,400万ユーロ(5,800万ドル)、建物の2,500万ユーロ(2,700万ドル)及び壁、フェンス、囲いの1,200万ユーロ(1,300万ドル)が含まれる。

根が窒息した圃場は営農活動を維持するために改植が必要で、その被害は8,550万ユーロ(9,200万ドル)に上る。同様に、洪水によって浸食され、土層改良と改植が必要な区画は合計5,940万ユーロ(6,400万ドル)の損害を被った。

今回の上層低気圧(DANA)による農業機械及び農業用車両の損失は、合計1千万ユーロ(1,100万ドル)である。畜産施設も大きな被害を受けており、損失は2,050万ユーロ(2,200万ドル)を超えている。

このほか、同協会の関連団体であるバレンシア州花き・植木・園芸技術専門家協会(ASFPLANT)は、観葉植物、インフラ、設備及び施設の破壊により、1億5千万ユーロ(1億6,100万ドル)の損失を報告している。

集中豪雨は、川や溪谷の氾濫、降雹、ハリケーン並みの暴風(一部は竜巻)と相まって、バレンシア州の9つの地域に広がる3万3,728ヘクタールの農地に影響を与えたとして、AVA-ASAJA は詳細を伝えている。最も被害が大きかった地域は、ラリベラアルタ(10,866ヘクタール)、南オルタ(5,394ヘクタール)、ラリベラバハ(5,128ヘクタール)、ウティエルレケナ(5,007ヘクタール)及びラオヤデブニョール(2,403ヘクタール)である。その他の被災地域は、カンパデトゥリア(1,865ヘクタール)、ロスセラノス(1,549ヘクタール)、バレンシア(1,417ヘクタール)及びラサフォル(99ヘクタール)である。

未収穫の作物に関しては、柑橘類が1万5,908ヘクタール、カキが3,327ヘクタール、野菜が1,149ヘクタール、観用植物・苗木が603ヘクタール、アボカドが150ヘクタール、合計2万1,137ヘクタールとなっている。

穀物、ワイン用ブドウ、アーモンド、イナゴマメ、オリーブなどの天水栽培の作物は、ほとんどがすでに収穫されていた。灌漑作物では果樹、夏野菜、コメ等が収穫されていた。しかし、洪水がコメ産業に与える悪影響、特にアルブフェラ自然公園(灌漑用水の水源でもある)への廃棄物の堆積の可能性が懸念される。

AVA-ASAJA は、多くの区画が完全に浸水し、作物の損失だけでなく、根の窒息による樹体の潜在的な被害をもたらし、伐根する必要が生じる可能性があると報告した。冠水した野菜の場合は全損である。また、多くの農場への取り付け道路が破壊されており、未収穫の農産物の一部が市場に届かない可能性がある。